

新型出生前検査 (NIPT) の世界と日本の現状

宗田 聡 先生

広尾レディース院長

平成27年12月2日 (水)

18 : 30 ~ 20 : 30

筑波大学総合研究棟D 公開講義室(1F)

米国では2011年から、日本でも2013年から始まった新型出生前検査 (NIPT) は、当初ダウン症 (トリソミー21) を対象とした非侵襲的で非確定的な出生前検査でした。

母親から採血して、母体の血中に存在している胎児由来のDNAを解析することで、胎児の疾患の有無を調べる事ができます。

技術的な急激な進歩によって、この数年の間にNIPTにより様々な胎児の疾患も予想できるようになってきました。

この新しい検査がもたらす変化や問題点などについて、世界における現状と日本における状況とを対比しながら、今起きている問題や今後の問題点などについて考察してみたいと思います。

今回の勉強会では、広尾レディース院長 宗田聡先生に「新型出生前検査 (NIPT) の世界と日本の現状」の演題で、お話ししていただく予定です。今回に限り、水曜日の開催になります。事前申し込みの必要はございません。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

この講演会は日本プライマリ・ケア連合学会茨城県支部の後援を受けています。この講演会に参加されますと、日本プライマリ・ケア連合学会 専門医・認定医2単位と認定薬剤師1単位が取得できます。

またフロンティア医科学専攻の医科学セミナー4 (高齢者医学) の一部となっています。

連絡先：筑波大学医学医療系
福祉医療学
柳 久子

TEL&FAX : 029-853-3496